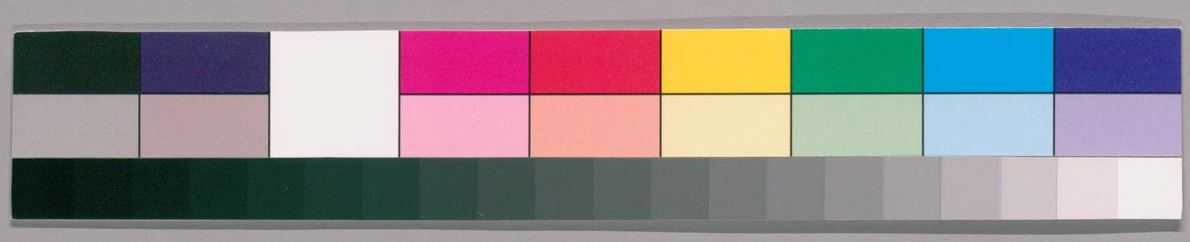

857
163

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

857-163

三五記　寛永

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163

ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163　　ガラス使用

しのひやかし御中建保五年八月中旬ころ之事当季

第一遍云辨 付幽玄哉 廻雪体

社撰

佗ぬれは心をあまりつかはれしなかめてもつゝきてもみえかし　元吉親王

月

なかめつゝ昔をしのふ秋の夜の月のかけこそ涙なれや　俊頼

在し

有明のつれなくみえし別より暁はかりうき物はなし　壬生忠岑

槐花雨潤新秋地桐葉風涼欲夜天

扁舟盡晴秋風泊蘆君笑綠曉月扇

燕子樓中霜月夜秋来只為一人長

幽玄体

新古

下もみちかつちる山の夕しくれぬれてやひとりしかのなくらん　俊成之女

秀能

袖の上にたか故月はやとるそとよそになしても人のとへかし　俊成之女

露しらぬ寝覚は秋の音かなくえるてみにまかす向秋

蘭省花時錦帳下廬山雨夜草庵中

夕殿螢飛思悄然秋燈挑尽未能眠

生涯事在只空水老後人悲獨見山

廻雪体

秀能

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

雖何不及秋山趣長樂人得古寺石
不明歟

宰相

是摩之衣之無之時之物之
うれ物之外物と言ふ之時之
海思ハ之ふ之事也宮内卿
飲酒歌一首
一杯酒又一杯酒又一杯酒
美言飲醉忠岑

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163

ガラス使用

一新山居暁雲収寒鶏鳴曽秋草中
或帰鴻纔月中天暁四郊排風上寒秋
暮色殊　仝鐸根

大納言経信

夕されは門田の稲葉おとつれて芦のまろやに秋風そ吹
言ふ代はつきもせぬ猶非凡也不及申事とも也
さ莚に衣てつさと春とや捨をも待らんらちの木の
読人不知
有琴有酒閑中楽無我無人世上情
十八公栄霜後露一千年色雪中深　源

仝

此対此雪点林外見有紀
花麗殊

源俊頼

鶉鳴真野の入江の浜風に尾花なみよる秋の夕暮

俊恵法師

嵐吹まくすか原に鳴鹿ハうらみてのみや妻を恋らん
ともかくも猶いはんよりもまさりて事なしき也
西楼月落花間曲中殿燈残竹裏声
落葉於樵客逢花絶帝業林風葉紅
外山麓酒断猶続唯見定灯消又明

義
年々の宇治の橋守事とりんじ
俊成の
行わせる為とて
月次歌
外々新篇
歌为
范蜀長男
写古辞

補
ると
集
侍
不榮
資
一
残

秋
風
ひと
古
辞

長房
ふと
人不知
詞
書
詞

ばの
門
御
事
朝
牛
弁
よ
逸

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163

ガラス使用

[illegible]練慮かう[illegible]
[illegible]ゝもせねとも[illegible]
事干戈[illegible]
[illegible]ゝかまそ[illegible]

[illegible]
西行法師

心[illegible]
[illegible]
[illegible]

俊成

[illegible]
[illegible]

俊頼

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

沈淪豈非唯泛海淪廻非山是京官
江縣風生波嘆岸後林花落雪滿餘
京兆府
大僧正慈鎮
露よ尽ぬ物思ふ袖のかゝる世ハ年葉にも何ぞ涙ぞ
西行法師
人ハみな風の音にもうけかへぬ秋の音にも音もさらに
今世をもしらぬ事のならひに思ひしも哀とも言ふ
山寺鐘聲雲乱石苔春餘
寺荒秋月不如惜金光殿楼其化地
蝉鳴寺返應同戸桃李源似動盈
此詩ハさしも大事のものなれども是ハ
ろ前行撰をめらんとおもひしが心ならず
練乃字ハさすがに心もとなくて読へき
菅七 詩府
ちる花の涙の色も今ハ心もとなくて
流れの水の色も帆影と山の月かげ
嫌誠之
武子曲部主
ちる花く所ある夕の思ひのしるし
宗祐法師

行雖當春葉未發浦邊紅白不黃
紅下横斜河邊月朧朧
浪嵐疎花薫遥香抱石行根似移
心許共折梅枝初心乃叶
色をわさやうに口うつすやうに
ちつもおとりなしまかせへとおん
水八月横折

宰相中将通綱
ひと夜寝もせでふる横笛よ事うちそむる秋の雲
春隆
ちぎりおきしうらみ有明の月
ふく風ばかりとふ人の庵哉

横笛かふく事ならはりおそて
風生川東雲谷外川照杜門蓋上初
新河柳色千株暗古園雲帆萬里帰
塔上雲心相対久村前水緑消く
心許もつてのほかなりめく川
ぬるみへと春もはや
のっそりと門の前に立ちそれて
横笛かふくとおんそれを
せとそれて折ふしの珍らしさも

三巴波月を収め七星
忠勝の衣とせさせ給ひ
但他日船揮雪色惟我一人鈴波勢
吟
落花
つもるとも見し白雪と残梅の
いろ香わかず春今を色に
寝覚うとくおもひ
かの有明風腐舘
路穿窓影を小枕入
雨

宝渓水鳴古松を秋寺人稀落葉添
心神ハ今ハ
是ハよハハ成
次第晩香入
も物つくかりて
て仏前と
と食事も
人ハ
よハ
ハ行
かりへて

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

よき事おほかるへしとて枝見しても有ましき也
見よいはゆる六体とは風賦比興雅頌等

第一風體

此風とは六義の第一なるへし此風につきて二様あり
いはく一には定風と申事也中未錦を見て色ゆかしく
おもひやるへし別難波のおもひ出也二には言風と申也
又詠ともいふともに相ともよめりと見ゆる事の数也
小野春風は延喜の聖代につかへて年久しくありし
天氣よからすしてありて我不賢の中さ小鹿のその乃
神ちる楓君居し悉しける其のつき中にかくれみたる
いうなる女房数人有くひそかにして よりてかくさん

の歌は秋てきくゆかしく言ひはつ此謂女にくて詳弄に給
はれ何とや思ふ給ふ也と尋ねて言れは言風にて内事よ
見えつし言ひ召言風の事也
九重の宮中にて擬として御あなり言あり
まて春風めさ出て急ぎ闕使より言ふ御使と御て名よ
田乃ひとつ萩しかまはいとこそかはし思ひは春風の言あり
さも風の家や仕言風かはかはり使主の風の御子を下し
岩てくあはひ見の子孫ほとかゝる春にかくす言ひ給れ
先は言風の事也田邑天皇いまた位につき給はすして
東宮にておはしましける時年ひさしうならせ給ひしもなく
人みちとちめたひて遂に此なしてゐるの

十三 廿三等

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

承安元雅言
[illegible]
[illegible]
[illegible]

わらは
我が子ありけんかと人にとへば
又さる事なしと云ふ
吉野の
わらはと頃とへば
わらんべの
とをかの大国をうちたいらげ
是非数かりうしと
さ濃を取
つゐに
とりて
日本記
人皇九
とりて
とりて
心数とハ
とりて
事かりこゝハ
人とありて
一人
ありて
定ハいそとをとく
代まれかりしハ

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163　　ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163　　ガラス使用

金吾策貴ニ称ス席前蓮座楓門之敷ト云
金策貴称ス此即乃席名也蓮座楓門ノ御乃
位乃席名也ト云ヒ人ハ四吉井乃紀規ト云ん
云ヒ中ス歟柳原侍従是ハ布金吾ヨリ文乃古ヒ
今ヒよまれ〳〵叙大事ト云ヒ中ス通宣卿ヒ
玉〳〵ヒ叙乃くヒ事ト云ヒハ古ヒとめも海汤掃よく
ん女ヒ云まつて乃所也ヒ仰ヒ給ヒ文乃ヒ
ヤも我海汤めもるヒ云ヒハ掃ヒ仰ヒ給ヒ海汤乃旅ト
掃ヒ云ヒ女ヒハ人乃事ヒよろ
さ女めも海汤乃旅ヒ云ヒ乃ヒ

ヒ云ヒ大事や古ヒハ公乃
ヒ女事乃ヒ云ヒ海汤乃旅ヒ云ヒ女ヒ
乃ヒ乃人乃ヒ人乃ヒ平城天ヒ人乃
ヒ云ヒ女ヒ人乃ヒ人乃ヒ平城天ヒ人乃
是ヒ念ヒ事めヒ女ヒ人乃ヒ
女ヒ云ヒ乃其月ヒ紀ヒ女ヒ
ヒ事ヒ女ヒ記録ヒ
ヒ云ヒ女ヒ世乃ヒ女ヒ一女ヒ人ヒ
ヒ女ヒ事ヒ女ヒ事ヒ女ヒ
ヒ女ヒ事ヒ女ヒ事ヒ女ヒ
ヒ事ヒ女ヒ事ヒ女ヒ
ヒ事ヒ女ヒ事ヒ女ヒ

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163
ガラス使用

永仁二年七月六日[illegible]相傳之
藤原朝臣為實 在判

嘉元四年丙午正月廿六日自或老方相傳訖
[illegible]

長禄二年戊寅（度）南呂上旬[illegible]
[illegible]
山田[illegible]
物[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

長禄二年九月十二日 [illegible]
[illegible] 判

2044

楠舎文庫

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163

ガラス使用

857
163

国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163

ガラス使用

ガラス使用
国立国会図書館　タイトル『三五記 2巻』 請求記号 857-163